

関 係 各 位

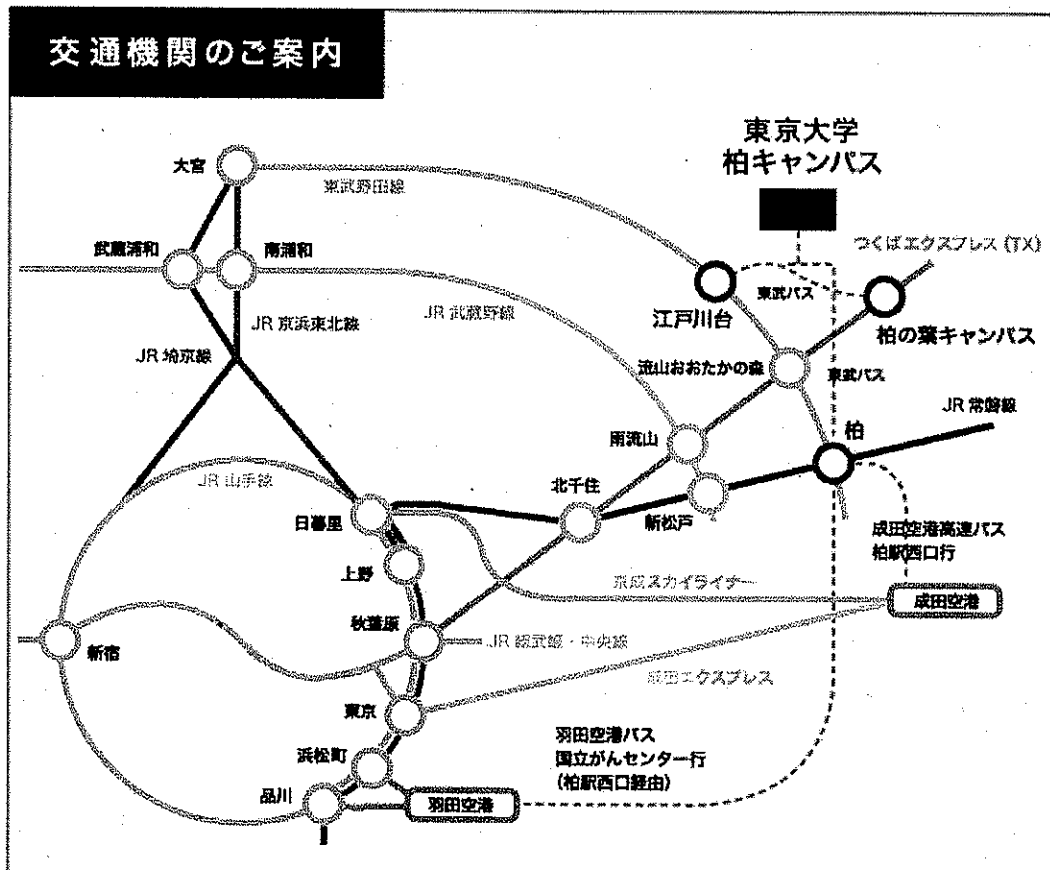
東京大学大気海洋研究所長

### 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会 「中西部太平洋におけるカツオの生態と資源」

標記のことについて、下記のとおり開催いたしますのでお知らせ致します。  
つきましては、貴機関内関係者へ御周知頂きますようお願い致します。

#### 記

- 日 時 平成 23 年 2 月 7 日 (月) 10:00~17:00 研究集会  
※17:15~18:30 に懇親会(会費制)を予定しております。
- 場 所 東京大学大気海洋研究所 2F 講堂  
〒277-8564 千葉県柏市柏の葉 5-1-5  
TEL: 04-7136-6011 FAX: 04-7136-6039
- 交 通 詳しい交通案内、地図は大気海洋研究所のホームページをご参照ください。  
URL: <http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/about/j/map.html>
- 備 考 当研究集会は参加無料、申込不要です。直接会場にお越しください。



# 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会

## 中西部太平洋におけるカツオの生態と資源

日 時：平成23年2月7日（月）10:00～17:00

場 所：東京大学大気海洋研究所 講堂

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5 TEL 04-7136-6011

コンピーナー：二平 章（茨城大学地域総合研究所）TEL 088-3068-9941

・小倉未基（遠洋水産研究所）・稲掛伝三（中央水産研究所）

大気海洋研対応者：渡邊良朗（資源生態分野）TEL 04-7136-6260

### プログラム

・趣旨説明 10:00-10:20  
二平 章（茨城大学地域総合研究所）

セッション1：カツオの産卵と成長

座長：稲掛伝三（中央水産研究所）

1. カツオの産卵生態 10:20-10:45  
芦田拓士（遠洋水産研究所）
2. 幼稚魚期におけるカツオの分布 10:45-11:10  
田邊智唯（遠洋水産研究所）
3. 耳石日輪解析によるカツオの成長 11:10-11:35  
嘉山定晃（長井水産）

（昼食）

セッション2：カツオの行動生態

座長：東 明浩（宮崎県水産試験場）

4. カツオの体温調節と回遊行動 12:30-12:55  
二平 章（茨城大学地域総合研究所）
5. FAD・パヤオ周辺でのカツオの行動 12:55-13:20  
松本隆之（遠洋水産研究所）
6. 常磐沖でのカツオの遊泳行動 13:20-13:45  
小倉未基（遠洋水産研究所）
7. 回遊モデルによる日本近海へのカツオの来遊研究 13:45-14:10  
清藤秀理・岡本俊（遠洋水産研究所）

セッション3：カツオの資源動向

座長：小倉未基（遠洋水産研究所）

8. 沿岸カツオひき縄漁況の経年動向 14:10-14:35  
御所豊穂・竹内淳一（和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場）
9. 日本近海域におけるカツオの来遊動向 14:35-15:00  
東 明浩（宮崎県水産試験場）

休憩 15分

10. 中西部太平洋におけるカツオの資源評価 15:15-15:40  
魚崎浩司（遠洋水産研究所）
11. カツオの資源変動と海洋環境 15:40-16:05  
稲掛伝三（中央水産研究所）

総合討論 16:05-17:00

座長：稲掛伝三（中央水産研究所）

終了後 懇親会 17:15-18:30

開催趣旨

カツオは日本漁業にとって重要な産業種の一つであり、熱帯海域から日本近海まで広く分布回遊する。カツオは日本近海では、沿岸ひき縄、近海竿釣り、熱帯地域では遠洋竿釣り漁業の対象魚種であったが、1970年代以降、日本の海外まき網漁業の開発によって、西部熱帯海域の漁獲量は増加の時代に入っていく。とくに、1980年代以降、西部熱帯太平洋における諸外国の大型まき網漁船の進出はめざましく、1970年代に20万トンレベルであった西部太平洋の漁獲量は近年には170万トンにまで急増している。西部太平洋海域における国際的魚類資源管理機構である中西部太平洋漁業管理委員会（WCPFC）は、カツオ資源はまだMSYレベルを上回っており、過剰漁獲の状況にはないとしている。しかし、分布回遊の北縁域である日本近海域では、来遊量の減少を指摘する声も出され、今後、西部太平洋海域におけるカツオ資源問題に関する議論は活発化することが予想される。日本における組織的なカツオ研究は1950年代から進められてきたが、熱帯から日本近海まで広く分布回遊する特性から、その成長・成熟・回遊生態については、まだまだ未解明な部分も多い。そこで、本集会ではこれまでに明らかにされたカツオの生態と資源についての知見をレビューするとともに、今後の研究課題について論議する。